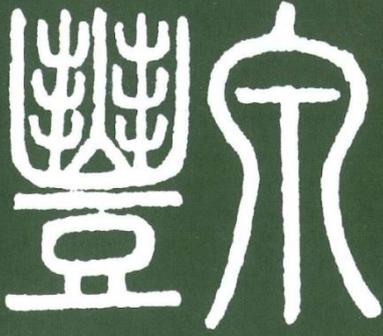


ほうせん



豊泉（ほうせん）とは 本学図書館が「汲めども尽きぬ豊かな知の泉であるように」との思いから、松原邦明名誉教授により名づけられました。（出典：明治9年『仏国学制』（文部省 翻訳・出版）附録上巻「学校ニ於テ教フル所ノ学科ノ外ニ、又人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」）



特集：第9回附属図書館 POP コンテスト受賞者発表

- 06 本との出会いを楽しむ〈第31回〉編集長の本棚
「心が喜ぶ本」（ベネッセコーポレーション 編集長 米谷明子氏）
- 07 こんにちは、図書館です！～先生インタビュー（人文社会科学部教授 原克昭先生）～
- 08 本を持って出かけよう 〈第4回〉～世界遺産白神山地へ～
- 09 図書館ショートストーリー「栞と嘘の暗号」〈第2回〉
- 10 Library's Half Year
- 11 寄贈図書紹介
- 12 図書館員ちよこっとコラム&編集後記

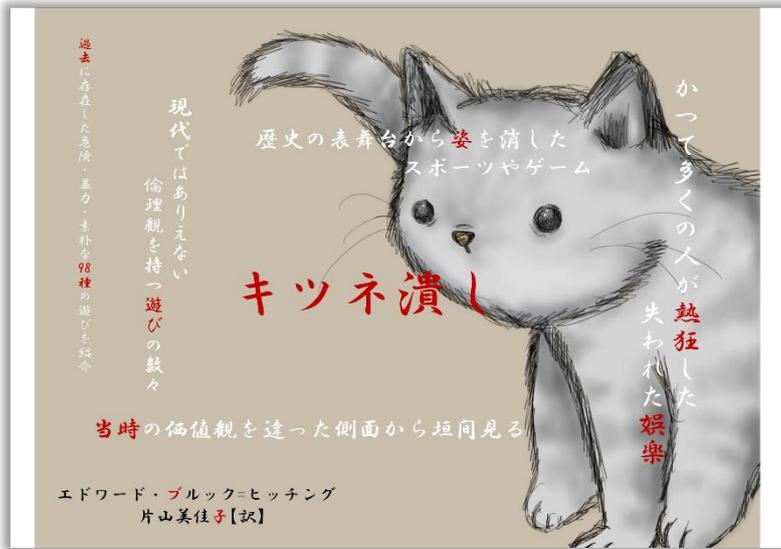
No.58

第9回 弘前大学附属図書館 POPコンテスト受賞者発表

今年もたくさんのご応募・ご投票ありがとうございました!シール投票・WEB投票により、こちらの6作品が入賞しました。
受賞者の方々から、この本を選んだ理由や、応募したきっかけなどについてコメントをいただきました。

大賞

「キツネ潰し：誰も覚えていない、
奇妙で残酷で間抜けなスポーツ」



教育学部2年 川口 航平

この度は、このような素晴らしい賞に選んでいただき誠に光栄に思います。

POPコンテストを開催するに当たり尽力してくださった方々や、実際に投票に足を運んでくださった皆様にもお礼申し上げます。

図書館には勉強や作業などで訪れる方も多いでしょうが、息が詰まったときや肩の力を抜いてリラックスできるのもまた、本に囲まれた図書館ならではの魅力ではないでしょうか。

そういった時、気軽に読めて簡単に本の世界に入り込めるような、そんな本をこのPOPを通して知ってもらえたら幸いです。

優秀賞

「現代語訳方丈記」



医学部4年 佐々木 慎一郎

ほんの10000字の本、青空文庫で読める本、古典で書架に収載された本、三拍子が揃った本を積極的に本棚へ戻せたことに喜びを感じます。私は方丈記の侘寂が大好きです。鴨長明が令和の災厄を見たら同じものを書くのでしょうか。

この前、StanfordとUC Berkeleyを訪問する機会に恵まれました。図書館はいいなと益々思いました。これからも頑張ります。

サンライズ産業(株)賞

農学生命科学部1年 郷家 碧



この本のPOPで弘前にご縁のある賞を頂けたことを大変光栄に存じます。「標本バカ」の川田伸一郎氏は弘前大学の卒業生です。この面白い先輩のことを、少しでも多くの弘大生に気付いてほしいと思っています。

「骨が好きで何が悪い」。これは人にドン引きされる度に私が心の中で叫んでいるセリフです。変わり者が変わり者のまま、好きなことで飯を食っていくのはとても素敵なことです。どうか勇気を出して変わり者でいてください。

佳作

人文社会科学部3年 小森 香好



この度はご投票いただき誠にありがとうございます。佳作という賞をいただいたこと、大変光栄に存じます。

この本は音声学の魅力在日常のよこびと共に紹介している素敵な1冊です。

本の魅力を伝えたい思いはもちろん、この学問を共に学ぶ友が増えてほしいという願いを込めてPOPを制作しました。

(私がそだったように)この本を読むことで、この学問を知ること、皆さまが生活に潜む秘密を発見して貰えたらと思います。

佳作

理工学部1年 工藤 愛加



この本と出会ったのは、多読本に最適な読みやすい本はないかと探していたときだ。私の英語のクラスでは毎回授業開始時に英語で書かれた本の紹介スピーチを行う。この本は英語が苦手な人でも理解しやすく、イラスト付きで楽しく読めるところが魅力だ。多読本を探している人は是非読んでもらいたい。

POP作成において力を入れたのはレタリングである。デジタルで作成したPOPだがタイトルの「THE LITTLE MERMAID」は手書きだ。手書きならではのゆがみがい味を出していると思う。注目してほしい。

佳作

人文社会科学部1年 天野 晴基



この度は佳作という賞をいただいたこと、大変光栄です。自分自身県外の出身で弘前大学に入学するにあたって太宰治の作品をいくつか読み直したことがこの本を選んだきっかけになりました。

POPにはクロード・モネの「散歩、日傘をさす女」を使用したことで作品にどことなく漂う儚さを演出できたと思います。誰もが知る名作ではありますがこのPOPを見て読んでみようと思ってくれる方や読み直そうとしてくれる方がいれば幸いです。



羽瀨館長（前列右）
サンライズ産業株式会社
工藤代表取締役（前列左）
及び受賞者のみなさん

弘前大学附属図書館では、2015年より毎年、図書館の利用促進や読書推進を目的としてPOPコンテストを開催しています。

今年もたくさんの応募があり、作品はすべて該当図書と共に図書館本館の2階企画展示コーナーに展示されました。そして、来館者からのシール投票及び専用WebページからのWeb投票によって、全6作品の入賞が決定しました。

今回は、かわいらしい動物のイラストで『キツネ潰し：誰も覚えていない、奇妙で残酷で間抜けなスポーツ』を紹介した教育学部2年川口航平さんが大賞を受賞しました。優秀賞には、シンプルかつ印象的な一言で『現代語訳方丈記』を紹介した医学部4年の佐々木慎一朗さんのPOPが選ばれました。



また、今回もサンライズ産業株式会社様にご協賛いただき、サンライズ産業(株)賞は、POPにタヌキの骨を描き、著者が弘前大学の卒業生である『標本バカ』を紹介した農学生命科学部1年の郷家碧さんが受賞しました。

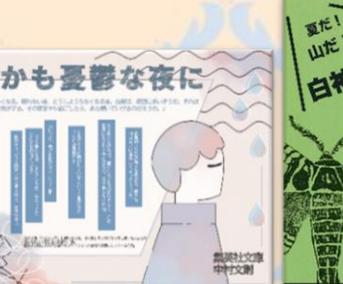
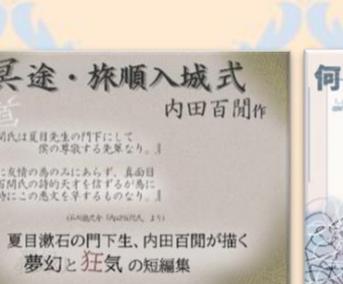
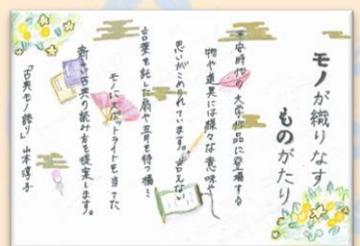
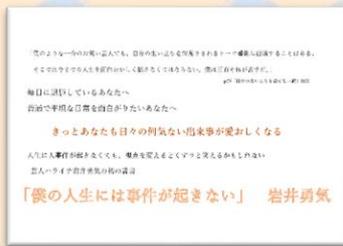
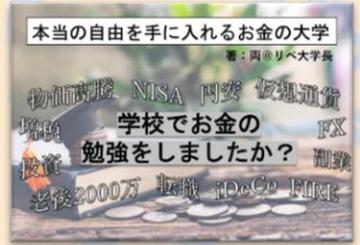
表彰式ではそれぞれの受賞者に表彰状と賞品の図書カードが手渡され、受賞者からこの図書を選んだ理由などについて熱い思いが語られました。



受賞POPと該当図書は引き続き展示する予定ですので、気になる本がありましたらぜひ借りてみてください。



たくさんのご応募ありがとうございました!



今年もたくさんの素敵な POP を飾っていますのでぜひ図書館にご来館ください!

本との 出会いを 楽しむ

第31回

編集長の本棚

「心が喜ぶ本」

米谷 明子

弘前大学教育学部幼稚園教員養成課程卒業。数社の出版社を経て、2007年(株)ベネッセコーポレーション入社。現在、『たまごクラブ』『ひよこクラブ』統括編集長。『妊活たまごクラブ』編集長。(株)ベネッセクリエイティブワークス雑誌ムック制作局局長 兼務。



今でこそ、編集という本に関わる仕事をしていますが、私が弘前大学の学生をしていた35年前、実は大学の図書館に行った記憶がまったくありません。漠然とした期待を持って大学生になったものの、自分は何をしたいのか、何をを目指したいのかわからない。コンパに行ったりサークルに入ったり、一見楽しそうにはしていましたが、大学の中に自分の居場所があるような、ないような…。

そんな私が唯一、一人で夢中になれて好奇心をかきたてられた場所が、当時土手町にあった大型書店でした。高校生の時から愛読していた投稿雑誌『ビックリハウス』（現在休刊）が唯一買える場所。編集部を通じて、投稿者同士で手紙をやりとりしたこともありました。その中の一人は、当時のペンネームのまま放送作家になられていて、テレビ番組のテロップで今もお名前を見かけます。

また、『離島情報』という雑誌を店頭で偶然見つけた大学2年時は、いても立ってもいられなくなり、弘前から沖縄の離島の民宿に押しかけて、アルバイトで夏の数カ月間滞在しました。離島という言葉も、場所も一度も考えたことはありませんでしたが、本を見つけた瞬間に「行く！」となったのです。

本はいつでも私にとっては「出会ってしまう」もの、そして行動を突き動かすきっかけになるものだと思います。

意図せず出会ったという意味では、高校の英語の先生から「米谷はいつか、この本を読んだらいいよ」とプレゼントされた本があります（『こころの旅』）。

高校生のときは、内容にあまりピンと来ていませんでしたが、人生の節目で読むたび、「人生は、旅をしているようなもの。自分の心が喜ぶ方向に向かえばいい」と、その時々で、私の背中を押してくれる本です。

最近になって、先生はなぜ、この本を私に選んでくれたのかな？と思うことがあります。居場所を求めてふらふら旅をしそうな私の未来が見えていたのかな？と。先生のおかげで、選書は誰かを思う行為だと今になって思い至りました。図書館も、当時そういう視点で行っていたら、また違った本との出会いがあったかもしれません。

無理して探さなくても、人生でいつかきっと出会ってしまう本（人も）がある。大学生の皆さんには、焦らず、自分の心が喜ぶ道に進んでもらいたいと思います。

（よねや あきこ）

「こころの旅」
神谷美恵子 著

143
Ka39

和図書（第1書庫2～5層）

こんにちは、図書館です！～先生インタビュー～

——先生は日本倫理思想史がご専門ですが、学生時代はどのように図書館を利用されていましたか？

まだパソコンもケータイも持たない90年代初頭の大学生にとって、図書館は唯一無二の情報源でした。私が在学していた私立大学図書館は研究書・雑誌紀要から新書・文庫・文芸書にいたるまで揃えていたので、ヒマさえあれば図書館で借り出しては青空ラウンジで読み耽っていました。おかげで「読書灼け」になったくらいです。卒業論文を控えた頃には明治・大正期に遡る古い雑誌論文を捜し自分なりの「研究史」を構築することに奔走しました。現代では論文データベースも充実し、リポジトリやWEB公開された学術論文が多勢を占めていますが、当時とはとにかく手ずから論文を捜し出すことが使命でしたので、新旧図書を兼ね備えた情報の宝庫としての図書館は欠かせない存在でした。

——専門以外ではどのようなジャンルの本をお読みにになりますか。

もとより日本倫理思想史という分野は、確固とした文献資料や方法論が規定されているわけではありません。むしろ、時代縦断・ジャンル横断しながら、日本のありかたを多角的かつ輻輳的に探究することを主眼とします。したがって、研究する上でも、日本史・古典・文学・芸術史・民俗学など隣接諸分野の文献も渉猟する必要があります。100人いれば100のテーマが存在するといわれるように、「〇〇思想史」と銘打つ図書（たとえば『日本遊戯思想史』『日本災害思想史』など）もあまた公刊されています。個人的には日本中近世の宗教文芸思想や神話の思想史を専門としていますが、人文領域に限らず少しでも興味をひいた本は、ひとまずめくってみるよう心懸けています。

——先生にとって「読書」とはどんな意義を持っていますか。

世にいう団塊ジュニア世代の真っ直中で生まれ育った私が、何かに「ハマる」経験は高校時代まで皆無に等しかったと思います。そんな「ノンポリ」で凡庸な「サイレント・マジョリティー」だった私が「ハマる」醍醐味を味わったのは、バブルの余韻が仄かに漂う大学進学後のこと。ふと手にした文庫本『ノルウェイの森』——そこはかたなく時代錯誤的な親近感を覚えたことを契機に、あらゆる作品群を読み漁り一介のハルキストへと成りあがりました。1Kアパートでひたすら原稿用紙にお気に入りフレーズを書き溜めては表現を真似たりした記憶があります。何のためでも誰のためでもない非実効的な「読書」の営為は、さらに“青春のはしか”こと太宰治、そして“未解決事件”筆頭の三億円事件探究へと（おそらく余所からは理解されがたい）脈絡を保ちながら拡大再生産されてゆきました。とりとめもなく「ハマる」ことが、何かのためと実効目的化したとき、その醍醐味は俄かに解消してしまうのかもしれない。

では、「ハマる」素因とは何か。そこに「文字」があり「物語」があり「文学」があるからでしょう。ともあれ実効性を追究する科学研究とは対照的に、文芸思想研究が永遠の陰画テーマとして屹立しつづけることを願ってやみません。

——学生さんへ図書館の活用方法についてアドバイスをいただけますか。

目当ての図書を捜す際、今はオンライン検索で所在を捜し当てることができますが、開架されている図書館では、ついでにその前後に配架されている関連図書にも触れることで、思いがけない重要な図書との邂逅を果たすことがあります。その点、弘前大学附属図書館も開



人文社会科学部
教授
原 克昭

愛知県生まれ。専門は、日本倫理思想史。主に日本の宗教文化や神話の変容について研究している。

架仕様ですので、開架であることを最大限に活用してもらいたいと思います。

——最後に弘前大学附属図書館に一言

弘前大学に赴任したことで旧弘前藩校や深浦円覚寺など津軽の地域資料や古典籍を調査する機会が多くあります。この資料が伝わる地域はかつてどんな場所だったのか、この文献を著した者はどんな人物だったのか。そんなとき頼りになるのも附属図書館です。地域に関する情報を収集する際には、青森に関する書籍はもとより、集密Aの郷土図書コーナーには地域資料が集約されており、まさしく地域の情報センターとして活用しています。

（聞き手：広報委員 佐々木）



編集に携わった図書

- ・深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書・第四集
- ・東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録・第八集



「錦秋の衣をまとった」

「白神山地が」



「白神山地が錦秋の衣をまとった。世界遺産のおよやかな森も秋色に染まった。」
(66 頁)

令和 5 年、世界遺産登録 30 周年を迎えた白神山地。秋の白神山地には紅葉したブナ林が広がっていました。

世界最大級の原生ブナ林が広がる白神山地は、青森県と秋田県にまたがっており、1993 年に世界遺産に登録されました。

白神山地世界遺産地域入り口には、世界遺産記念碑が設置されています。また、世界遺産登録認定書のレプリカも見ることができます。

江戸時代の紀行家・菅江真澄も白神山地を訪れ、旅路を記録に残しています。

四季を通して素敵な姿を見せる白神山地。写文集を片手に、四季を感じながら世界遺産白神山地を散策してみるのもいいかもしれません。

本を持って出かけよう

…… 第 4 回 ……

世界遺産白神山地へ



『五能線 白神の四季』

秋田県在住の登山ガイド・写真家後藤千春氏による写文集。五能線の列車の姿や白神山地の四季など、様々な写真と共に短文で構成された一冊です。写真と短文から、白神山地だけではなく五能線の魅力にも改めて気づくことができます。

『五能線白神の四季』

後藤千春

秋田魁新報社、2013 年

A748 || G72g (地域志向コーナー)



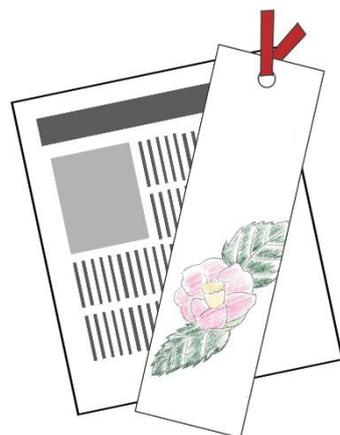
附属図書館 地域志向コーナー

図書館本館 1 階には、弘前市や青森県をテーマにした資料を集めた「地域志向コーナー」があります。また、地域に関する漫画も並べられていますので、ぜひ、手に取ってみてください。

葉と嘘の暗号 第二回

前回までのあらすじ

大学の図書館カウンターでアルバイト中、忘れ物らしき葉を見つけた二人は……



「なんすかね、これ」

「普通に考えたら、忘れ物、かな」

「始まりは、返本台に置いてあった一冊の本だった。」

そして、その本に挟まっていた葉と一枚のメモ。

メモに書かれていた数字を元に本を探してみたら、その本にも同じような葉が挟まっていた。

印刷されたものじゃない。画用紙に色鉛筆でピンク色の花が描かれていて、「丁寧にラミネートまでされている。」

「あと、これも一緒に挟まってきました」

「新聞記事？」

「さわった感じは普通のコピー用紙だから、新聞をコピーしたものだと思う。」

新聞紙名も日付も入っていないが、特徴的な見出しの形や文章の段組は新聞によく見るレイアウトだ。ハガキくらいの大きさで、地方のちよつとしたイベントが写真付きで紹介されている。

「記事と本の内容とは別に関係ないみたいだな」

先輩はパラパラとその本をめくって、

他にも何か挟まっていないか確かめているみたいだった。

「そもそもこれ、いつの、どの新聞なんすかね」

記事は変なところで切れていて、全文が読めない。スマホ関連の用語が使われているから、そんなに古い記事でもなさそうだけだ。

「調べてみる？」

「えっ」

めんどくさそう、と思つたのが顔に出ているらしく、先輩はからかうようにニヤニヤと笑つた。

確かに、図書館には新聞もたくさんある。このあたりの地方紙だけじゃなく、全国紙もあるし、北海道・東北地方の新聞もそろっている。カウンターにいるときに「去年の新聞が読みたい」と言われて、書庫を案内したこともある。

「けど、日付がわからない、どの新聞かもわからないものを、見出しだけでどうやって探せば……」

「新聞記事検索データベース、使つたことない？」

「無いっす」

データベース？

「図書館のサイトから、リンクをたどつて、ログインして、見出しの単語を入れて……あ、この記事かな」

「へえ」

先輩がささつとパソコンを操作すると、画面には手元のコピーとまつたく同じ内容の記事が表示された。

「え、これ、何でも探せるんですか？」

「何でも、じゃないけど、図書館で契約している範囲なら」

「へえ……」

画面には、平成と令和だけでなく明治大正昭和という文字も表示されている。見出しで調べるだけでなく、日付で絞り込んだりもできるみたいだ。

「今調べたデータベースなら、この新聞の創刊号から閲覧可能だから、百年前の新聞も読めるよ」

「百年……」

そんなに古い新聞でも、見出しの単語で検索してパソコンでそのまま読めるなんて、実はすごく便利なのでは。

「この新聞でこの日付なら、原紙は書庫にあるね。行ってみる？」

先輩はまたニヤニヤ笑つていた。

原紙。そうだ。今データベースで調べた記事の、新聞そのものが、この図書館にあるということだ。

暗号を先に解読されたようで悔しいけれど、確認せずにはいられない。

「すいません、行つてきます！」

そう言い残して、早歩きで書庫に向かう。

そこにも葉が挟まっているかもしれないのだから。

つつく





Library's Half Year 2023.6~2023.11

6/9	令和5年度第1回附属図書館運営委員会
6/12	太宰江展示(~7/2)
6/21	「ミダノ歴史館」同時POP枚数拡大(~7/25)
6/26	「朝日新聞ワーカー」同時POP枚数拡大(~7/16)
7/1	第12回 Book Hunting @ジュンク堂(~7/2)
7/3	「日経BP」記事検索サービス活用セミナー
7/5	第1回情報探索セミナー
8/7	POPコンテスト応募作品展示・投票開始(~10/31)
8/8	オープンキャンパス(ミニ展示)
8/10	市民 Day(ミニ展示)
8/21	蔵書点検(~9/22)
9/8	令和5年度第2回附属図書館運営委員会
9/15	貴重資料保管室燻蒸
10/16	学内向け古本市(~10/18)
10/21	弘前大学総合文化祭古本市(~10/22)
11/13	利用者アンケート実施(~11/26) POPコンテスト表彰式 令和5年度読書週間運動企画「対談イベント」
11/25	第13回 Book Hunting@ジュンク堂(~11/26)
11/30	豊泉第58号 Web 公開

附属図書館では、7月・11月に、学生と図書館職員がジュンク堂書店に行き、図書館に置く本を選ぶBook Huntingをそれぞれ2日間開催しました。小説や絵本、授業に関連した本など様々なジャンルの本が選ばれ、本館2階企画展示コーナーに並んでいます。



また、7月には企業の専門講師の方をお呼びして、ワンランク上の情報探索スキルを学べるセミナーを開催しました。



POPコンテスト応募作品の展示は8月7日から始まり、8月のオープンキャンパスや4年ぶりに開催された市民 Day ではたくさんの方々に投票していただきました。

10月21・22日に開催された総合文化祭では、古本市を開催しました。古本市では、不要となった図書を皆さんに再利用していただくため無料で提供しています。また、今年度は総合文化祭での開催に先立ち、学内向けの古本市も開催し、多くの方に利用していただきました。



11月には、令和5年度読書週間運動企画として、図書館長と卒業生の米谷明子氏との対談イベントを行いました。グローバル・スクエアで行われた初の対談イベントでしたが、たくさんの学生や教職員の方にご参加いただきました。



館内設備やサービスに関する利用状況や満足度、要望等を把握し、今後の図書館運営及びサービス改善の参考とするため、利用者アンケートを11月13日から11月26日の期間、実施しました。

寄贈図書紹介

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書資料をご紹介します。(令和5年4月～令和5年9月受贈分)

寄贈者	書名	著者・編者	出版社	冊数	所蔵先
王孫涵之(人)	毛詩原解	(明)郝敬撰;王孫涵之點校	崇文書局	1	本館1
王孫涵之(人)	庄子:化鶴告時	(日)中島隆博著;王孫涵之譯	生活・讀書・新知三聯書店	1	本館1
関根達人(人)	喜界島の古墓	関根達人著	弘前大学人文社会科学部文化財論研究	1	本館1
中野顕正(人)	恵林寺歴代住職頂相集	中野顕正, 新津健一郎編	乾徳山恵林寺	1	本館1
中村剛之(農)	白山山地の蛾250(1-4)	中村剛之, 平手季一著	弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター	9	本館5/分館4
中村剛之(農)	白山自然観察園のきのこ(2-11)	原田幸雄, 山岸洋貴著	弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター	30	本館20/分館10
中村剛之(農)	白山自然観察園の植物(2-3,5-6)	弘前大学白神自然環境研究所 [編]	弘前大学白神自然環境研究所	12	本館8/分館4
中村剛之(農)	白山自然観察園の動物(3)	弘前大学白神自然環境研究所 [編]	弘前大学白神自然環境研究所	3	本館2/分館1
中村剛之(農)	植物標本の作製法, 改訂版	山岸洋貴著	弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター	3	本館2/分館1
中村剛之(農)	樹木の材と年輪年代学	石川幸男著	弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター編	2	本館1/分館1
羽淵一代(人)	現代若者の幸福: 不安感社会を生きる	藤村正之, 浅野智彦, 羽淵一代編	恒星社厚生閣	1	本館1
葉山茂(人)	フィールドワークという探索活動の可能性: 「研究におけるフィールド調査の重要性」に関する多分野横断型研究報告書	葉山茂編	弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター	1	本館1
葉山茂(人)	継承される地域文化: 災害復興から社会創発へ	日高真吾編	臨川書店	1	本館1
葉山茂(人)	現代日本漁業誌: 海と共に生きる人々の七十年	葉山茂著	昭和堂	1	本館1
葉山茂(人)	被災地の博物館に聞く: 東日本大震災と歴史・文化資料	国立歴史民俗博物館編	吉川弘文館	1	本館1
平野潔(人)	あなたも明日は裁判員!?	飯考行, 裁判員ラウンジ編著	日本評論社	1	本館1
弘前大学出版会	スクリーニングの原則と実践	J. M. G. Wilson, G. Jungner著; 大島明監訳; 雑賀公美子, 松坂方士, 斎藤博訳	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	基礎物理学実験の手引き(自然エネルギー学科)(令和5・6・7年度版)	弘前大学理工学部自然エネルギー学科編	弘前大学出版会	1	本館1
弘前大学出版会	基礎物理学実験の手引き(地球環境防災学科)(2023-2025年版)	弘前大学理工学部地球環境防災学科編	弘前大学出版会	1	本館1
弘前大学出版会	電子情報工学実験I: 実験の手引き(令和5年度版)	弘前大学理工学部電子情報工学科編	弘前大学出版会	1	本館1
弘前大学出版会	見ることに言葉はあるのか: ドイツ認識論史への試み	嶺岸佑亮 [ほか] 編著	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	写真集弘前界限(第5集)	今泉忠淳著	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
弘前大学出版会	植物細胞壁実験法, データベース更新版	石井忠 [ほか] 編著	弘前大学出版会	3	本館2/分館1
藤江玲子(教)	高校生のドロップアウトの子供に関する研究: 子どもたちが幸せに生きることのできる社会へ	藤江玲子著	大学教育出版	1	本館1
キコハス・ニコラース・ウェスタホーゲン(元)	Een vrouw rent over een berg	Yuko Tsushima; uit het Japans vertaald door Jacques Westerhoven	De Bezige Bij	1	本館1
保田宗良(人)	2022年度弘前大学人文社会科学部・教育学部消費者教育推進事業報告書: 中高大連携による消費者教育推進事業の実践モデルの構築	消費者教育推進事業報告書編集委員会編	消費者教育推進事業報告書編集委員会	1	本館1
山岸洋貴(農)	愛しの生態系: 研究者とまもる「陸の豊かさ」	植生学会編; 前迫ゆり責任編集	文一総合出版	1	本館1
力石國男(名)	看護学生のための統計学	力石國男著	三省堂書店/創英社	2	本館1/分館1

※敬称略。寄贈者名の50音順。カッコ内は寄贈者所属。

(人): 人文社会科学部、(農): 農学生命科学部、(教): 教育学部、(元): 元教員、(名): 名誉教授

【弘大図書館ホームページ】

2022年3月、弘大図書館ホームページをリニューアルしました。より見やすく、知りたい情報にたどり着きやすいようになりましたので、ぜひご活用ください。

<https://ul.hirosaki-u.ac.jp/>



◆編集後記

POP コンテストへの多数の応募を通して、たくさんの面白い本を知ることができました。皆様にも、受賞作品だけではなく様々なジャンルの本を手にとっていただきたいです。(Tsushima)

弘大図書館では、毎年いろいろなイベントを行っています。POP コンテスト、古本市、対談イベント…今年参加できなかった方も、来年はぜひご参加いただければと思います。(Maruyama)

今号では、いくつかの記事の編集を担当しました。先日、回覧された出版物目次で有名版画家の姓名が誤植されていました。編集にあたっては何回も校正をしますが間違いが見つかります。今号も誤植が無いように。(Sasaki)

弘前大学附属図書館報「豊泉」 第58号

発行日：令和5年11月30日

発行：弘前大学附属図書館

編集：弘前大学附属図書館広報委員会
〒036-8560

青森県弘前市文京町1

TEL 0172-39-3163

FAX 0172-39-3171



◆◆◆◆◆図書館員ちょこっとコラム◆◆◆◆◆

弘前市周辺は数多くの日帰り温泉が点在しています。

周辺の温泉に行ってみてはいかがでしょう？私が利用している温泉をいくつかご紹介します。

まずは、弘前市原ヶ平の「せせらぎ温泉」です。泉質はナトリウム-塩化物硫酸塩泉で色は黄赤の温泉で外には広い露天風呂があり、38度ぐらいなのでいくらでも長くいられます。内湯には立派なサウナもあり、テレビを見ながら入り、その後屋外の椅子に座り大パノラマの空を見ながら体を冷やすのはとても気持ちが良い、疲れもストレスも吹っ飛ばすようです。

弘前市愛宕にある「あたご温泉」は、熱めの浴槽と20度ぐらいの低温の浴槽があり、琥珀色でかすかに油臭がするモール温泉です。モール温泉とは植物が長い年月をかけて蓄積していき、地層の一種である亜炭層を通して湧き出ている温泉です。かつてアイヌの人たちからは「薬の沼」と言われていたそうです。熱めの風呂と低温風呂に交互に入るととても気持ちが良いです。

岩木山麓に鎮座します嶽温泉は、乳白色で硫黄臭が強く、藩政時代からの源泉として知られている温泉郷で、見晴らしのよい山麓に位置するこの湯の里は、岩木山観光の拠点としても賑わいを見せます。近くの高原は石坂洋次郎の小説「草を刈る娘」の舞台として有名です。春はわらび・タラの芽、秋はきのこ・とうもろこし（嶽きみ）等を販売している店があり、季節折々の岩木山からの贈り物を頂くことができます。

最後は平川市碓ヶ関にある古遠部（ふるとうべ）温泉です。山の中にあり、中は狭いですがトド寝と言われる浴槽の近くに仰向けになって、毎分500リットルの湯量を背中に感じながら入る「寝湯」が、全国的にも有名な温泉です。泉質がとても健康に良く「医者いらすの温泉」とも言われています。

この他にも、いろいろな温泉がありますので、ご自分で探索してみるのも楽しいと思います。

(いしおか かつひこ)

論文投稿時の掲載料(APC)支援 2024.1~

弘前大学では2024年1月より、Wiley社及びOxford社との契約において、電子ジャーナル購読料とAPCを包括した転換契約(Read&Publish契約)を導入します。

これによるオープンアクセス出版支援の詳細については、下記の学内限定ページをご覧ください。

◆Wiley社 https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp_wiley/ (※学内限定)

◆Oxford社 https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp_oxford/ (※学内限定)